



2023年12月20日

各 位

会 社 名 南海電気鉄道株式会社
代 表 者 名 代表取締役社長 岡嶋 信行
(コード番号 9044 東証プライム市場)
問 合 せ 先 総務広報部長 新階 寛仁
(TEL. 06-6644-7125)

連結子会社である泉北高速鉄道株式会社との経営統合に関する基本合意のお知らせ

当社は、本日開催の取締役会において、当社の完全子会社である泉北高速鉄道株式会社との経営統合に基本合意することを決議いたしましたので、下記のとおりお知らせいたします。

記

1. 本経営統合の目的

当社は2014年7月1日に大阪府等から旧大阪府都市開発株式会社の株式譲渡を受けて、同社の名称を泉北高速鉄道株式会社（以下「泉北高速」）と改めました。グループ化以降、速達性向上や運賃値下げをはじめとする鉄道の利便性向上策を通じた泉北ニュータウン等の沿線活性化に加えて、物流施設の高度化や駅ナカビジネス拡充等の収益力向上にも取り組んでまいり、2022年4月1日、こうしたシナジーの更なる発揮を目的に、当社は泉北高速の全ての株式を取得し、完全子会社化いたしました。

一方、沿線人口の減少やコロナ禍を通じた生活様式の変化等により、鉄道事業の構造的な需要減は歯止めがかからない状況にあり、また、将来にわたって事業を担う人財の確保が困難となることは確実視されています。そうした中で当社が策定した“2050年の企業像”の実現に向けて、鉄道事業と不動産賃貸事業という同種の事業を営む両社の経営を統合し、グループ経営の効率改善を通じてサステナブルな公共交通の経営の実現や更に競争力のある流通センターの確立に向けて経営資源を投入していく事業体制を確立していくことが最善の方策であるとの判断に至りました。鉄道利用がしやすい運賃設定等を通じて、泉北高速沿線の堺・泉北エリアにおける「暮らす・働く・訪れる」価値を高め、南海電鉄グループのまちづくりを深化してまいります。

2. 本経営統合の方式

当社を吸収合併存続会社、泉北高速を吸収合併消滅会社とする吸収合併方式を前提に検討することで合意しておりますが、吸収合併契約の内容については未定であり、今後両社間で協議のうえ決定してまいります。

3. 今後の見通しについて

当社と泉北高速は、2025年度早期の経営統合に向けて検討を進め、両社の経営統合に関する最終合意の決議が完了次第、速やかにお知らせいたします。

本経営統合は、完全子会社との経営統合であるため、連結業績に与える影響は軽微であります。また、今後、両社で詳細を検討する中で公表すべき事項が生じた場合には速やかにお知らせいたします。

以 上

(参考) 当期連結業績予想 (2023年10月31日公表分) 及び前期連結実績

	営業収益	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する当期 純利益	1株当たり 当期純利益
当期業績予想 (2024年3月期)	百万円 248,000	百万円 27,200	百万円 25,400	百万円 21,800	円 銭 192.52
前期実績 (2023年3月期)	百万円 221,280	百万円 21,023	百万円 18,965	百万円 14,623	円 銭 129.13

(ご参考)

2023年12月20日
南海電気鉄道株式会社
泉北高速鉄道株式会社

南海電気鉄道株式会社と泉北高速鉄道株式会社との 経営統合に関する基本合意のお知らせ

南海電気鉄道株式会社(社長:岡嶋 信行、以下「南海電鉄」)と泉北高速鉄道株式会社(社長:金森 哲朗、以下「泉北高速」)は、本日開催の両社の取締役会において経営統合(以下「本経営統合」)することに基本合意いたしましたので、以下のとおりお知らせいたします。

1. 本経営統合の目的

泉北高速が運営する鉄道事業(中百舌鳥～和泉中央間)は、南海電鉄高野線(難波～中百舌鳥間)との相互直通運転を行い、泉北ニュータウン等、堺市と和泉市にまたがる郊外住宅エリアと大阪都心を結ぶ地域の交通インフラとしての役割を担っております。また東大阪市と茨木市において運営する東大阪、北大阪流通センターは、トラックターミナルや流通倉庫、配送センター等の物流施設が一体的に立地する一大流通拠点であり、国民生活や産業活動を支える重要な役割を果たしております。

南海電鉄は2014年7月1日に大阪府等から旧大阪府都市開発株式会社の株式譲渡を受けて、同社の名称を改め、泉北高速をグループ化いたしました。以降、速達性向上や運賃値下げをはじめとする鉄道の利便性向上策を通じた泉北ニュータウン等の沿線活性化に加えて、物流施設の高度化や駅ナカビジネス拡充等の収益力向上にも取り組んでまいりました。2022年4月1日には、こうしたシナジーの更なる発揮を目的に、南海電鉄がグループ会社の保有する泉北高速の全株式を取得し完全子会社化いたしました。

一方で、その間も沿線人口の減少やコロナ禍を通じた生活様式の変化等により、鉄道事業の構造的な需要減は歯止めがかからない状況にあり、また将来にわたって事業を担う人財の確保が困難となることは確実視されています。

そうした中で南海電鉄グループがめざす“2050年の企業像”の実現に向けて、それぞれが鉄道事業と不動産賃貸事業という同種の事業を営む南海電鉄と泉北高速の両社を経営統合し、グループ経営の効率改善を通じて持続可能な公共交通の経営の実現や更に競争力のある流通センターの確立に向けて経営資源を投入していく持続可能な事業体制を確立してまいります。

また一連の改革とともに、鉄道利用がしやすい運賃設定等を通じて、泉北高速沿線の堺・泉北エリアにおける「暮らす・働く・訪れる」価値を高め、南海電鉄グループのまちづくりを深化してまいります。

2. 本経営統合の当事会社の概要

1. 名称	南海電気鉄道株式会社	泉北高速鉄道株式会社
2. 所在地	大阪府中央区難波五丁目1番60号	大阪府和泉市いぶき野五丁目1番1号
3. 代表者の役職・氏名	代表取締役社長 岡嶋 信行	代表取締役社長 金森 哲朗
4. 事業内容	鉄道事業 不動産賃貸業 不動産販売業 ショッピングセンターの経営	鉄道事業 物流事業 店舗事業
5. 資本金	72,983 百万円	4,000 百万円
6. 設立年月日	1925 年 3 月 26 日	1965 年 12 月 24 日
7. 発行済株式総数	113,402,446 株	8,000,000 株
8. 決算期	3 月 31 日	3 月 31 日
9. 大株主及び 持株比率	<p>日本マスタートラスト 9.41%</p> <p>信託銀行株式会社（信託口）</p> <p>株式会社日本カストディ 6.47%</p> <p>銀行（信託口）</p> <p>日本生命保険相互会社 2.19%</p> <p>GOVERNMENT OF NORWAY 1.39%</p> <p>三井住友信託銀行株式会社 1.34%</p> <p>JP MORGAN CHASE BANK 1.31%</p> <p>385781</p> <p>株式会社三菱UFJ銀行 1.30%</p> <p>株式会社三井住友銀行 1.26%</p> <p>株式会社池田泉州銀行 1.14%</p> <p>STATE STREET BANK 1.09%</p> <p>WEST CLIENT - TREATY</p> <p>505234</p> <p>（2023 年 9 月 30 日現在）</p>	南海電気鉄道株式会社 100%
10. 直前事業年度の財政状態及び経営成績		
決算期	2023 年 3 月期（連結）	2023 年 3 月期（単体）
純資産	274,586 百万円	54,228 百万円
総資産	935,113 百万円	78,452 百万円
1 株当たり純資産額	2,306.15 円	6,778.57 円

営業収益	221,280 百万円	13,675 百万円
営業利益	21,023 百万円	4,599 百万円
経常利益	18,965 百万円	4,646 百万円
親会社株主に帰属する 当期純利益/当期純利益	14,623 百万円	56 百万円
1株当たり当期純利益	129.13 円	7.03 円

3. 今後の予定

南海電鉄と泉北高速は本経営統合について、南海電鉄を吸収合併存続会社、泉北高速を吸収合併消滅会社とする吸収合併を前提に検討することを定めた法的拘束力のない覚書を締結いたします。2025年度早期の経営統合に向けて検討を進め、両社の経営統合に関する最終合意の決議が完了次第、速やかにお知らせいたします。

4. 今後の見通し

本経営統合は、南海電鉄と同社の完全子会社である泉北高速との経営統合であるため、連結業績に与える影響は軽微です。今後、公表すべき事項が生じた場合には速やかにお知らせいたします。

5. 運賃について

上記の目的に鑑み、堺・泉北エリアにおける「暮らす・働く・訪れる」価値を高め、交流人口・関係人口増加や子育て世代の流入促進の観点から、初乗り運賃の二度払い解消等、地域からのこれまでの声に応えることができるよう検討を進めてまいります。

【現在検討中の運賃案（一例）】		
区間：南海電鉄難波～泉北高速泉ヶ丘間		
(現行) 普通運賃	通勤定期	通学定期
490 円	23,980 円	9,670 円
(検討案) 普通運賃	通勤定期	通学定期
490 円	18,770 円	6,060 円
<差分> ± 0 円	▲5,210 円	▲3,610 円
※上記は検討中の運賃であり、今後変更の可能性がります。		

以上

【本リリースに関するお問い合わせ先】

南海電気鉄道株式会社 総務広報部
TEL:06-6644-7125